

信濃美術館の基本設計にかかる 「県民リレー・ワークショップ」（教育関係者・学生）の意見概要

日 時：平成 29 年 9 月 24 日（日）午前 10 時から 12 時

場 所：城山公民館 第二地区分館 集会室

出席者：(株)プランツアソシエイツ 代表取締役 宮崎浩氏、副所長 吉満聡氏

松本透信濃美術館整備担当参与、青木県民文化部長、日向信濃美術館整備
室長、塩入施設課企画幹

参加者：23 名

概 要

[主な意見等]（アンケートへの回答含む。）

【全体】

- 設計者の思いを直接聞くことができてよかった。
- 設計者の「つながる」美術館の考え方に共感した。
- 現状、このエリアは閉ざされた空間になっている感じがする。

【設計関連】

- 美術館として、広く親しまれる環境や空間を大事にしてほしい。
- 気軽にふらっと立ち寄れる美術館になるとよい。ぜひ敷居の低い美術館を実現してほしい。
- 何かのついでに美術館に寄ってみるきっかけや動線を複数つくってほしい。
- パブリックスペースは、県民の大きなリビングになるとすてきである。子どもや大人が自分の空間を探せるとよい。
- 長野の冬は寒いので、豊かな内部空間があるとよい。
- 子どもが大人になり高齢になるまで、何度でも訪れたい思い出と新鮮さが共存する美術館にしてほしい。
- 海外の人に自慢できる施設になることを期待している。
- 美術館では重厚な雰囲気でも美術作品を鑑賞したい。その一方で、美術館全体を使ってアート活動を行うなど、みんなで美術館をつくりあげていく取組も大事。新しい美術館では両方の機能を持ってほしい。
- 今の信濃美術館は観に行くところのイメージが強い。使うところのイメージになるとよい。

- 制作や造形体験をした後に手洗いにトイレまで行かないといけないのは不便。多目的スペースや体験スペースには水場があるとありがたい。
- ワークショップルームの水道設備は、子どもと大人で高さが調節できるとよい。
- 子どもたちの使うスペースは、画を描く、ものをつくるだけでなく、多様な表現ができる場所になるとよい。
- 善光寺門前にはアーティストがたくさんいる。美術館に発表の場、作家同士の交流の場があるとよい。
- 館内に園児が集まれる場所があるとよい。
- 生徒が美術館に入る前にひと呼吸おく場所があるとよい。城山公園の緑で気持ちを落ち着かせ、美術館に入って美術を鑑賞、体験する。そんな場所になるとよい。
- 毎年、信濃美術館で「キッズ造形フェスタ」を開催している。市民のアート活動の場所が美術館の前庭に広くあるとよい。
- 無料で気軽に楽しめるように場所にオブジェを置いたらどうか。
- 待ち合わせ場所になるところがあると、もっと行こうという気になる。
- 展望広場の発想はおもしろい。ここから見える風景は今ない。
- 階段の勾配は子どもにも使いやすいように配慮してほしい。
- 停電時を考えるとエレベーターだけではなく、スロープも必要ではないか。
- トイレは大人も小さな子どもも使えるものにしてほしい。

【運営関連】

- 運営面について学校関係者をつながりを持ってほしい。一緒に協力したい。
- 子どもの声がいっぱいする美術館がすてきである。小さな頃に美術を体験することで将来につながる。
- ワークショップなどは、事前申込制ではなく、美術館に来たら自由に体験できるとよい。隣の城山小学校が図工の時間に美術館に行き、体験学習ができるとよい。そのような活用ができると他の学校にも活用が広がる。
- 中学生が美術館を展覧会鑑賞の場としてだけではなく、バックヤードなど館内を見学できるメニューがあるとよい。職場体験や社会とのつながりを考えるとよい機会になる。
- 県立美術館に来れば、県内の美術情報が入手できるようになるとよい。
- 仕事が終わった後に立ち寄れる美術館になるとよい。（夜間開館など）

- 夜間営業だけではなく、夜間限定のアトラクションがほしい。
- 長野市観光情報センターともしっかり連携し、観光客へのお勧めスポットとしてPRしてもらったほうがよい。
- ミュージアムショップは、みんなが手にしたくなるような、リーズナブルなお土産を扱ってほしい。
- 子どもから大学生まで開館につながる美術館教育プログラムがあるとよい。
- 今回のプロジェクトは、学生にとって非常に貴重な機会である。ぜひ学生に開館までの準備やアイデア出しについて協力させてほしい。

(以上)